

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0006 名古屋市中区葵1-27-32 カイフビル7階

HD ニュース

No.12
2013.12.15

今後の予定／於：事務局会議室

12月17日(火)18:00～ 相談委員会
12月17日(火)19:00～ 研修会・福祉医療研究会
12月19日(木)18:00～ 木造技術研究会
12月19日(木)19:00～ 忘年会(当会会議室集合)
1月21日(火)18:00～ マンション大規模修繕研究会
1月21日(火)19:00～ 研修会

第10期 理事及び各委員長のご紹介

理事長 滝井幹夫

総会と役員会を経て何人かの退任と新任が行われた結果、第10期は以下の体制で運営されます。今期は特に事業活動の開拓、実施に力を入れようと思統一をしています。

会員・賛助会員各位の委員会・研修会へのご参加、ご支援。ご鞭撻をお願いする次第です。

理事長 滝井幹夫

副理事長 寺島靖夫 新野修一

理事 石井隆司 井上邦克 小川尚志

片山繁行 川窪 巧 瀨瀬 誠

津島勝弥 渋谷道子 関口啓介

西尾貞臣 森 登 平岩 保

監事 野村 武 水野豊秋

総務委員会 平岩 保

マンション大規模修繕研究会 藤井 修

相談委員会 瀨瀬 誠

木造技術研究会 寺島一朗

技術研修委員会 津島勝弥

福祉医療研究会 片山繁行

情報委員会 新野修一

11月19日技術研修会について

技術研修委員会委員長 津島勝弥

11月19日の技術研修会では、これからの高齢者の住まい方を考える際に大変重要になる水まわり環境について理解を深めるため、TOTOの桑原氏を講師に迎えて「高齢者水回りセミナー」を実施し、病院や高齢者施設で実際に導入されている医療福祉機器の紹介と解説をいただきました。安全性、快適性、操作性(清掃・メンテナンス)はもちろん、さらに、そこで働くスタッフの声(働きやすさ)、環境への配慮を5つのキーワードとして配慮ポイントと空間プランを勉強しました。

この勉強会は、先回の「高齢者施設の設計について(設計基準等の解説)」からの流れで、福祉医療研究会との合同での実施です。これからの高齢者の住まい方を考える際、選択肢が増えて、利用者が自らで選ぶことが必要となりますが、設計者は、自分のことであると同時に、その供給側で仕事をする機会もあるかと思えます。国策でこれから伸張していく「特別養護老人ホーム」や「サービス付き高齢

者向け住宅」の水回りを勉強しておくことは設計者にとって、とても重要であると考えています。

車イスを利用している人自身に向けてだけではなく、介助(介護)をする人の作業性、安全性を考慮した空間プランには、施設向けに限らず住宅においての様々なヒントがありました。さらに、施設スタッフの使用(衛生、作業姿勢)に配慮した手洗い器、汚物を粉碎することで細い排水管で対応し、室内のどこにでも水洗トイレが設置できるポータブル型トイレ、異物の混入があった場合も、大がかりな保守作業がいらぬ掃除口付きの機能など、現場の声がいろいろと繁栄されてきているのがわかりました。

資料も充実した内容でしたので、ぜひ、次回は出席してください。

12月17日(火)19:00～

「パブリックユニバーサルデザイントイレセミナー」

講師/TOTO桑原氏

本紙バックナンバーは当会のホームページ<http://www.sumaidoctor.or.jp>からご覧いただけます

名古屋市独自の施策である「身体障害者住宅改修補助事業」の建築相談員を始めて16年が過ぎようとしている。週に1回、2軒づつ家庭訪問をする。相談員が全部で6人いるから名古屋市としては月に24軒程の障害者の住宅改修相談を受けていることになる。年間250軒以上。これだけの数の障害者が在宅で生活しているということだ。しかも16年間途切れたことが無い。今後もエンドレスで続くであろう。途方もない数だ。

最初のうちはあまり気にしなかったが、最近気づいたことがある。独居の割合が多いということだ。高齢者も多い。働けず、高齢で一人暮らし。この状況を想像するのは一般の人には難しい。人として、最低限の生活とは何だろうと困惑の渦に巻き込まれる。

勿論全ての単身高齢障害者がそうではないのだが、大半の家が、掃除が出来ていない。正確には「出来ない」のだと思う。そしてそれに慣れる。慣れると汚れが気にならなくなる。他人との交流があれば、まだどこかで歯止めが効くのであろうが、支援のSOSの出し方も分からない状況なのであろう。住まいは荒れる一方だ。この国には嘗て近所付き合いという文化があった。今では「付き合いがない」を乗り越えてプライバシーだ、個人情報だと他人を干渉しない仕組みばかりが出来上がっている。「干渉されたくない」のではなく「干渉したくない」視線で考えられていると思わざるを得ないのだが、荒れた家はゴミ屋敷と化す。衛生上の問題も発生する。他人

が近寄り難くなる。益々孤立化する。まさに悪循環である。こういう住環境で人は優しくなれない。あきらめや絶望から目の輝きを失う。生きるために必要な「最低限の食事」と「寒さを凌ぐ最低限の家」。それさえあれば後は自己責任でやってくれ。この国はそういう国だ。学生時代に住まいを福祉と捉える考え方を学んだ。北欧の考え方だったと記憶するが、この国にその思想は存在しない。

即効性のある解決策はないであろう。制度や仕組みでは救えない問題なのかもしれない。しかしこのままで良いはずがない。やれることは有る。接点のある人が、お節介と言われようと声を掛け、手を出し、携わっていくことである。ケアマネやケースワーカーの存在価値は高い。関わり、手を出し、片付けて物を減らす。そうすることが絶望の家にしらない手立てである。

住宅改修補助事業は不自由な部分を改善する制度である。決して補修やクリーニングを目的にはしていない。しかし、工事の手が入ることで住空間に生氣が甦るのであれば、「不自由な部分を改善する」以上の成果だと思う。

住宅改修には、その後の人生の方向すら変える力があるのだと確信している。少しでも早く「住宅改修」までたどり着いてほしいと思う。荒れて手がつけられなくなる前に。目の輝きが失われる前に。

大島前委員長より引き継いだ委員長職でしたが、昨年度は、活動が少なくご迷惑をおかけしました。片山新委員長、よろしくお願いいたします。

委員会・研究会等報告

2013年11月

■マンション大規模修繕研究会 11/19 18:00~19:00
勉強会資料の検討。藤井修さんが実際に行われたマンション大規模改修の実例報告。藤井新委員長就任頂き今後は実例を元に研究会をすすめる。

■技術研修会 11/19 19:00~21:00
「高齢者水回りセミナー」講師:TOTO 桑原氏。

■木造技術研究会 11/21 18:30~21:00
「木造住宅のための住宅性能表示」読み合わせ。終了後、「ヤマベの木構造」再読。

■役員会 12/5 19:00~20:30
第10期役員の確認と各委員会報告。会員の動向と会費納入・収支状況。事業活動の開拓。等